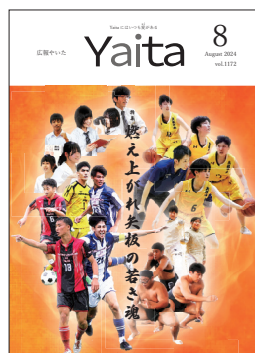


CONTENTS 目次

- 2 特集 燃え上がれ矢板の若き魂
- 8 地域おこし通信・ヤイタゴハン ほか
- 10 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 14 はつらつ通信
- 16 市からのお知らせ
- 27 #yaitagram・クイズ&アンケート
- 28 ゆかりびと・編集後記

COVER 表紙の写真



表紙の写真は、特集で取材した高校生を、テーマ「燃え上がれ矢板の若き魂」のイメージでコラージュしたものです。試合中は真剣でカッコいい姿を見せてくれた皆さんですが、取材の合間に見せる笑顔がとても輝いていてまぶしかったです。

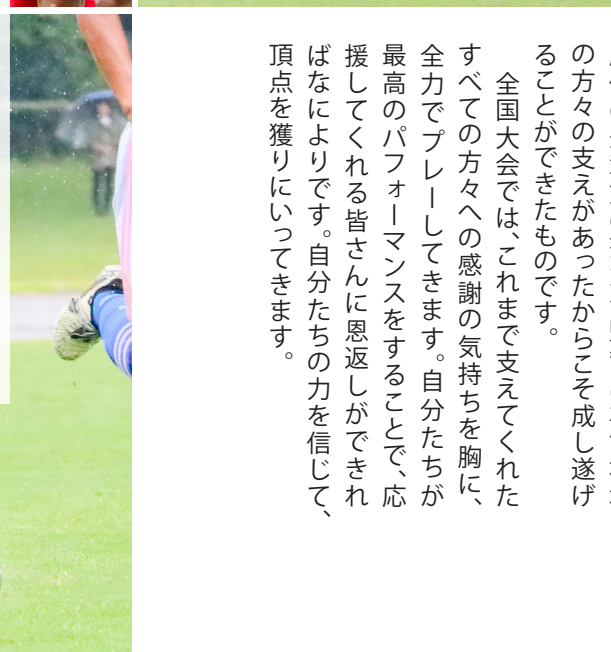
POPULATION 人口 (7月1日現在)

30,334 人 (△32)	出生 10 人
男 15,115 人 (△13)	死亡 31 人
女 15,219 人 (△19)	転入 47 人
13,407 世帯 (△1)	転出 58 人
() 内は 6 月 1 日との比較	※住民基本台帳をもとに算出
△は減	



矢板中央高校 サッカー部

「絶対王者」重圧を乗り越え、6連覇



特集
燃え上がれ矢板の若き魂

全国高校総体（インターハイ）をはじめとする高校生の夏の大会が、全国各地で幕を開けました。「全力を出し切ってアツイ夏にしてほしい」とそんな願いを込め、全国へ挑戦する矢板市の高校生を紹介します。

感謝の気持ちを力に変えて

ピッチに立つ選手は、他の部員たちの思いも受けた代表です。それぞれが持つ個性、練習で積み重ねてきた息の合った連携プレー、声が枯れるほどの声援を送ってくれる他の部員たち、全員の心を一つにして、全国制覇を目指します。

「感謝の気持ちを忘れずに」

これは、歴代の先輩たちから受け継いだ言葉です。部長という大役を任せられること、全国大会へ出場できること、ピッチに立てること、すべて当たり前のことではないと思っています。今年は、インターハイ県予選で前代未聞の6大会連続優勝という偉業を達成しましたが、これは、歴代の先輩方の努力や監督、家族、地域の方々の支えがあったからこそ成し遂げることができたものです。

全国大会では、これまで支えてくれたすべての方々への感謝の気持ちを胸に、全力でプレーしていきます。自分たちが最高のパフォーマンスをすることで、応援してくれる皆さんに恩返しができるかなによりです。自分たちの力を信じて、頂点を獲りにいってきます。



部長 佐藤 快風 さん

矢板中央高校 女子バスケットボール部



創部から16年。女王、再び

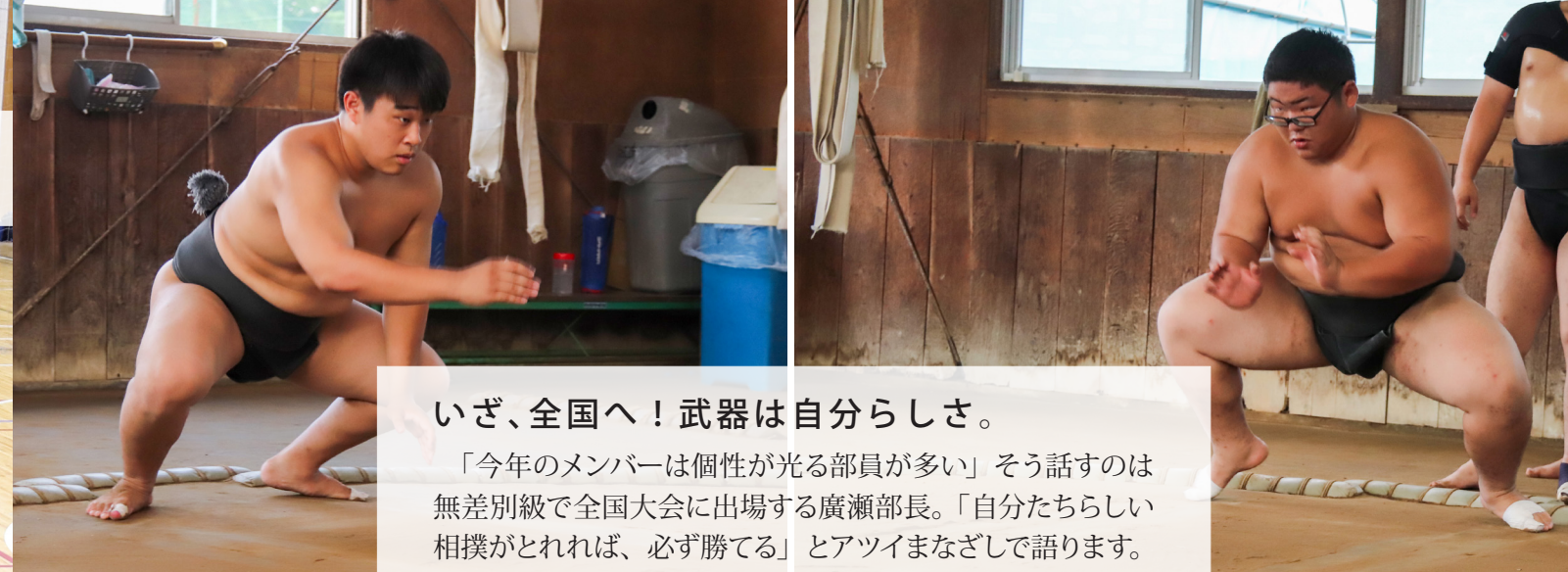
創部当時、部員3人でスタートした女子バスケットボール部は、2年前にウィンターカップ初出場を果たすなど、年々結果を残し、強豪校として名を刻むほどになりました。思うように結果が出ず、苦しかった昨シーズンを乗り越え、今年、再びインターハイ県予選を制し、女王に再び咲きました。



最後に笑うために
「優勝杯奪還」
これは、今年4月に、チームみんなで掲げた目標です。「思うような結果を残せず引退した先輩方の悔しさを、私たちが晴らしたい」「今年こそは必ず全国へ」そんな思いを全員で誓い、今日まで練習を積んできました。
強豪校のチームには、中学校時代から全国大会に出場した経験がある人や、選抜チームに選出されている人がたくさんいます。それに比べ私たちは、そういった選手もいなく、個々の実力・体格では劣る部分があるかもしれません。それでも、今回優勝し、県代表を勝ち取ったのは、紛れもなくチームの力だと思っています。試合中、選手一人ひとりが、仲間を信じて、コッコツと自分のやるべきことをやり切ることができました。
全国大会でも、緊張を味方につけ、自分たちらしいプレーをすることを心がけます。自分たちの得意な展開を作り、自分たちらしいバスケで勝ち進みたいのです。まずは一勝。そしてさらなる高みへ。チーム一丸となつてがんばります。



部長 小川 希来 さん



いざ、全国へ！武器は自分らしさ。

「今年のメンバーは個性が光る部員が多い」そう話すのは無差別級で全国大会に出場する廣瀬部長。「自分たちらしい相撲がとれば、必ず勝てる」とアツイまなざしで語ります。

彼らの活躍でまたひとつ、矢板高校相撲部の伝統に歴史が刻まれます。



矢板高校 相撲部

相撲の楽しさを地域へ
私はマネージャー歴1年目ですが、毎日、練習後に食べるおにぎりを作っていました。汗を流して練習する彼らの背中からは、「相撲が好きで、練習が楽しくてしょうがない」そんな思いがあふれていると感じます。
相撲部には、入部前から相撲場になじみのある選手がたくさんいます。矢板高校の相撲場は、地域の小中学生の相撲教室の練習場にもなっていて、未来の相撲選手を育む場所としてもひと役買っています。今年、個人戦で全国大会に出場する3人も、小学生の頃、ここで相撲と出会い、戦友として、ライバルとして今日まで切磋琢磨してきた仲間です。
3年生にとっては高校生活最後の大舞台。今までの練習の成果を発揮し、悔いを残さず、体いっぱい相撲を楽しんでもらいたいです。
そして、その取組を通じて、相撲の楽しさが一人でも多くの人に伝わり、興味を持つ人が増えるとうれしいです。私たち後輩は、精一杯応援し、その思いと相撲部の伝統を引き継ぎます。



マネージャー 神山 奈菜 さん

一戦でも多く勝つ

私たちは矢板市から宇都宮中央高校に通っています。高校でフェンシングと出会い、今しかできないスポーツかもしれないと、2人で一緒に始めました。

私たちのチームは男女混合で練習していて、意見やモチベーションの違いがあり、チームでまとめることが課題でしたが、インターハイ県予選ではチーム一丸となって、女子団体戦で優勝することができました。また、個人戦でも、3人の選手が上位入賞し、全国大会に出場します。

負けても「次は絶対勝つぞ」と切り替えられたり、すぐに軌道修正ができることが私たちの強みです。この強みを武器に、一戦でも多く勝ち進み、いい経験をして帰ってきたいと思っています。



女子個人サーブル1位 女子団体フルーレ1位
(左から) 小宅 有咲 さん・部長 坂巻 和佳 さん



宇都宮中央高校 フェンシング部

矢板東高校定時制 バドミントン部



女子シングルス5位
先山 はるな さん

切磋琢磨し、勝利を目指す

県予選で上位に入賞し、他の学校から選出された選手と県団体戦チームとして全国高校定時制通信制体育大会に出場します。

昨年と同じチームに選ばれましたが、いつもの練習と比べ、他の学校の選手とプレーすることは緊張感があり、とても刺激になります。精神面でも技術面でも大きく成長できるので、今年も楽しみにしています。

先日、合同練習会で他のメンバーと顔合わせをしました。今年はとても優秀な選手が新たに選ばれていて、全国大会でも爪痕を残せるのではないかと期待をしています。全国大会までにチームの絆を深め、切磋琢磨しながら、昨年よりも良い結果が出せるよう、県代表として全力でがんばります！

市では、スポーツをがんばるあなたを応援しています

団体や個人が、国や県の代表としてスポーツ大会に出場する場合、「スポーツ大会出場費交付金」をお渡ししています。

対象／

- ①市内の小学校・中学校・高校に在籍し、学校の代表として大会に出場する児童または生徒
- ②交付金の申請の日から大会終了の日まで継続して矢板市に住民登録をし、かつ、現に矢板市を生活の本拠としている者



詳しくはこちら

*特集は、スポーツ大会出場費交付金の申請に基づいて取材しています。

交付基準／

開催地	基準額	上限額 (最大10人まで)
栃木県	0円	0円
福島県・茨城県・群馬県・埼玉県	3,000円	30,000円
千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・長野県	5,000円	50,000円
その他の道府県	10,000円	100,000円
国外	50,000円	500,000円

問い合わせ／生涯学習課 ☎ (43) 6218

全国高校総合文化祭へ出場

矢板中央高校 新聞部

昨年の学校行事の様子をまとめた学校新聞「中央ぶれす」が県コンクールで最優秀賞を受賞しました。

部員2名で取材・撮影・編集業務のすべてを行っていて、大変なこともあります。「読む人みんなが幸せになるような新聞にしたい」という気持ちから、妥協せずに何度も写真や文章を校正して作り上げています。

「高校生でもこんなにすごい新聞が作れるんだ!」と、先輩方が作ってきた「中央ぶれす」に自分たちが感動したように、読者にも感動が与えられるよう、全国大会でたくさんのことを学び吸収し、これからの新聞作りに生かしていきたいです。



(左から) 芳賀 晴乃 さん・部長 渡邊 公喜 さん

矢板東高校 リベラルアーツ同好会

私たちは矢板市本町にあった宿場町について調査し、県大会で地理部門の代表に選ばれました。

ゼンリンの住宅地図を1980年代から比較したり、屋号の変わらない老舗のお店に取材をしたり、法律の視点から移り変わりのきっかけを考察したり。地道で時間のかかる調査ではありますが、成り立ちや関わりが分かってくると、小さい頃から見知った場所でも見え方が変わり、とてもおもしろいです。

全国大会では、このおもしろさを広く共有するとともに、他校との交流会やフィールドワークを通して、自分たちの考えや知識を深めたいと思います。



(左から) 葛西 夢彩 さん・河野邊 晶 さん・森 花菜子 さん

関東地区高校生文芸大会へ出場

矢板中央高校 文芸部

「試験後にクラスメイトとショッピング

はしゃぎつかれて乗り過ごす帰路」

篠塚 琉季斗 さん



今まで短歌や俳句を作ったことはありませんでしたが、部活動紹介で文芸部の作品を見て、興味を持ち入部を決めました。

実際に作品を作ってみて、楽しかった思い出や印象に残ったことを短歌で表現することができたときに楽しいと思いました。言葉選びが難しいので、これから勉強していきたいです。

「日焼け止め顔にしっかり準備よし

ピストルを待つスタートライン」

部長 石川 璃奈 さん

体育の授業中に日焼け止めの香りがして、夏を感じたときに思いつきました。「日常にある、よく見たらきれいなもの」をテーマにすることが多いです。

決められた文字数での表現や言葉選びは難しいですが、私が感じたことを相手に想像してもらうために、余地を残して作るようにしています。

